

アムステルダム・アジェンダ

第5回研究公正に関する世界会議（5th World Conference on Research Integrity）

研究公正に関する世界会議（WCRI）は、世界全体で研究の公正性の向上を図るため、議論の促進や協調的な取り組みに努めている。ここ数年にわたり、研究の公正性に伴う困難の本質を理解するための取り組みについて、参加者が報告を行ってきた。また、不正行為を減らし、ベストプラクティスを推進するための方法も提案してきた。最終的な目標は、シンガポール宣言に定められた、以下の責任ある研究の4原則に則った研究の実施を保障することにある。

- 研究のすべての側面における誠実性
- 研究実施における説明責任
- 他者との協働における専門家としての礼儀および公平性
- 他者の代表としての研究の適切な管理

今後は、研究公正の向上のための各種の取り組みを評価し、研究公正に関するポリシー策定のために実証的情報を活用することに一層の重点をおくべきである。この目標を達成するため、WCRI 財団（World Conferences on Research Integrity Foundation; WCRIIF）は、以下のアジェンダを実行する。

1. WCRI 財団は「責任ある研究の実施に関する研究の登録制度（Research on Responsible conduct of Research Registry; 3R Registry）」を確立する。この3R Registryを通じ、研究者らが、以下の6つの重要な要素を柱として、研究を計画・実施・報告・共有するように奨励する。
 - a) **問題** 選択的な報告（都合の良い部分だけの報告）、メンタリングの不足、研究の質の保証の不十分さなど、研究対象とする具体的な問題点。
 - b) **影響** その問題点が、研究の信頼性、研究組織の信用、研究資金の責任ある使用、責任ある研究に関わるその他の指標に及ぼす影響の推定。
 - c) **介入** 特定された問題点に対処するための具体的な方法（教育、研究成果の評価、研究の質のチェック、責任ある行動を促すための強化策など）。
 - d) **仮説または期待される成果** 介入の結果として期待される変化。
 - e) **評価** 仮説の検証方法および期待された成果の達成度を評価するための方法。
 - f) **データ共有** （質的および量的）データの共有方法。
2. WCRI 財団は、研究公正に関する研究を支援するよう助成機関を奨励する。
3. WCRI 財団は、研究公正に関する研究の重要性と、その成果を活用し、証拠に基づいたポリシーを策定することの重要性に関し、意識啓発に努める。
4. WCRI 財団は、研究公正に関する将来的研究を体系化し、優先順位を付けることを目標として、第6回WCRIにおいて、3R Registryへの反応について報告する。